

愛媛大学理学部化学科構造化学同窓会 関東支部会通信

第三号
2019.02.01

◇はじめに

2018年11月10日、第三回 愛媛大学理学部化学科構造化学同窓会関東支部会の総会が行われました。過去二回は東京都区内での開催でしたが、今回は趣を変え、横浜スタジアム近くのグランベル横浜ビルの貸会議室で開催されました。総勢16名の同窓生が集結し、日ごろの多忙な業務としばし距離を置いて旧交を温める貴重な時間となりました。

総会では平成29年度の年間活動及び会計について各担当幹事から報告後、参加者の近況報告がありました。講演会の部では、関東支部会の河野会長よりフリーラジカルが関与する長寿への影響を科学的に考察したご講演、さらにはスペシャルゲストとして愛媛大学より垣内拓大先生にご上京頂き、ドイツ留学に関する様々な苦労話をご講演頂き、参加者は興味深いお話に興味津々聞き入っていました。

その後は、隣接する中華街にくりだし、金香楼にて本格中華料理を堪能しながら、尽きることのない昔話に花が咲く一夜となりました。



◇会長ご挨拶 河野雅弘会長

関東支部会を代表してご挨拶させていただきます。関東支部会を設立して3年、副会長、理事、監事の皆さんの協力を得て、無事に継続した運営をさせていただいております。知識と経験豊かな卒業生の方々の皆さん能力は絶大で、運営は軌道に乗ってきました。ただ、会員の皆様の構成からすると若い方々の割合が低く、多くの卒業生の参加を願っています。大学は、社会人としての登竜門であると同時に、人生のターニングポイントであるとも言えます。社会に出ると同窓であることの意識も希薄になりますが、遺伝子は大学での生活によって培われるものです。今後の交流を通じて、遺伝子の輪を広げていきたいと願っております。ぜひ、若い方々の参加を願う次第です。

◇担当幹事による年次報告及び会計報告

・平成29年度活動報告（福田総務担当幹事）

本年度の主な活動として、愛媛大学構造化学講座50周年記念事業への参加が報告されました。本関東支部でも幹事会にて事業への参加協力が議論され、当日は会員22名の参加と講演での発表等があり、無事に貢献することができました。引き続き、大学との協力関係を強化し、垣内先生をお呼びしてのご講演会などの魅力ある企画を進めながら、同窓会の認知度と若手会員の参加数をあげるべく次年度の活動へのつなげてまいります。

・平成28-29年度活動報告（江戸会計担当幹事）

平成28年度（平成28年4月1日～平成29年3月31日）；収入は、前期繰越金41,392円、本部からの設立準備金50,000円、第二回総会参加者32名分の補助金32,000円に加え、第二回総会参加費等の収入合わせて336,752円でした。一方、支出は、関東支部設立に当たって河野会場よりお預かりしていた50,000円の返金、関東支部銀行口座の印鑑代10,584円、その他第二回総会に伴う諸経費226,428円でした。残りの49,740円は、次期に繰り越されました。

平成29年度（平成29年4月1日～平成30年3月31日）；収入は、前期繰越金49,740円、平成29年の理学部50周年記念大会の関東支部からの参加者に対する22名分の補助金22,000円を合計し71,740円でした。支出はありませんでしたので、期末において金71,740円が平成30年度に繰り越されました。本結果は、第三回総会参加者によって承認されました。

◇河野関東支部会長のご講演

タイトル；「フリーラジカル研究で長寿を科学する：ヒトは何歳まで生きられるか??」
1971年大学を卒業して半世紀になろうとしておりますが、30年近い企業生活とその後の大学での活動を支えてきたのは、若かりし頃の石津和彦先生の挑戦者精神でした。

当時の構造化学では電子スピン共鳴装置で常磁性イオンやフリーラジカル研究をしていました。石津先生の話題の中心はフリーラジカルで、低分子のラジカルアニオンやカチオンでした。先生の話で内容も分からず関心を持ったのが、核酸（DNA）と色素ラジカルの相互作用の話でした。ヒトの遺伝子が明らかにされたのは、2003年ですので、30年の前に、遺伝子とラジカルとの関係を調べられていたのはさすがとも言えます。今日の研究では、遺伝子の損傷ががんを誘発することがわかっています。ヒトの死因は、ガンと脳梗塞や心筋梗塞など虚血疾患と呼ばれる病気です。そのため、これらの病気の原因を制御することが寿命を決めることとなります。その原因を科学的に突き詰めると、活性酸素・フリーラジカル分子に到達します。私も、大学卒業後から活性酸素・フリーラジカルを計測する研究開発に従事してきました。石津先生は、研究対象となるものを合成し、計測して、評価することを重要視されていました。そのため、計測なくしては評価できません。40年の時を積み重ねて計測技術が確立し、やっと、ヒトの寿命の問題に迫ろうとしています。科学的に根拠に基づき推定できるヒトの最高寿命は、117歳±2歳となると思います。ただ、個人(私)の寿命を知ることはできていません。そのため、健康寿命を伸ばす話題が蔓延しているのです。最後に、長寿を達成された石津先生に感謝いたします。

◇愛媛大学の垣内拓大先生のご講演

タイトル；「Science Work at Berlin、研究滞在 A-to-Z」

垣内先生が海外での研究活動への参加を決断されてから渡航、滞在、帰国に至る過程を自分史（感情起伏）のグラフを交えながらご紹介頂きました。ベルリン大学の教授から研究室への参加承諾を受けるまでや渡航が決定してからの学内外での手続きなど、大変ご苦労されたようです。後にその分野の大教授と繋がっていたことを知って興奮されたときの様子や滞在中のヨーロッパめぐりのお話などもあり、大変興味深くまた楽しく拝聴させて頂きました。まだ研究活動は道半ばとのことですが、今後のご活躍と実験の成功を同窓生一同よりお祈りいたします。

垣内先生のご講演から一社会人として将来のキャリアプランを考え目標設定を行い、達成するためのプロセスの構築、そして何よりも度々訪れる困難を一つずつ乗り越えていく（Break Through）ことが大切であるとあらためて認識させて頂きました。

また、ご講演の終わりに愛媛大学理学同窓会の就職支援活動についても触れられ、理学部を卒業して活躍されている先輩からのリクルートを同窓会でも積極的に受け付け、学生さんに案内させていただきたい旨をお話しされました。



◇総会風景 (参加者)



総合司会：福田幹事



垣内先生のご講演



集合写真

◇懇親会風景



◇集合写真（懇親会）



◇幹事あしがき

構造化学同窓会関東支部会も設立から三年を経て、ようやく軌道に乗ってきました。
愛媛大学から前回同様先生をお呼びして、講演会を開催し、最近の構造化学の研究動向について知ることができ大いに刺激になりました。
先生との関係さらには現役学生との関係を深めながら四年目につなげていきたいと思えます。引き続き本会の運営へのご協力よろしくお願いたします。